



富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

30 ベニカノコソウ

職藝学院

教授 渡邊 美保子

ベニカノコソウは、ヨーロッパ原産の寒さに強い宿根草です。5月中旬から6月初旬に深みのある紅色の小花をたくさん咲かせます。草丈は80cm位になります。冬を越すたびに花茎の数が増えてくるので一株だけでも存在感があります。また、葉は規則正しく交互に向かい合い、つやのある抹茶色をしています。葉を眺めているだけでもさわやかな気持ちになります。

ベニカノコソウは、花茎の先端に小さい蕾をたくさん付けます。その後、打ち上げ花火のように放射状に花を咲かせてゆきます（写真1）。向かいあう葉は小花の集団を包み込むように付いています。その下の段の向かいあう葉の付け根からは、一対の花茎が伸びてきます。その先には、また蕾の集団が付いていて次の出番を待っています。しばらくすると花茎の先端の小花の集団は階段状に伸びてゆきます。球状だった小花の集団は、いつのまにか円錐状に花を咲かせるようになります。

ベニカノコソウの花びらの形も不思議です。花は、まるで人のような姿をしています。細長い頭から両手が伸びていて、細い両足が2本ぶら下がっているように見えます。花びらはくっついていて、その裏に距（きょ）と呼ばれる筒状の細長

い角のようなものがあります。表側のひょうきんな花の姿からは想像もつかない裏側の花の姿に驚きます。

ベニカノコソウは、花が終わった後も楽しめます。まだ先端に少しの花を申し訳なさそうに咲かせている頃、下の段ではすでに種ができています。花が終わりしばらくすると青い種の先端からふわふわした綿菓子のようなものが盛り上がってきます。すると、その翌日にはタンポポの綿毛のようなものがぱっと開きます。ベニカノコソウの花茎は、まるで雲の階段のように生まれ変わります。

ベニカノコソウは、東南側の光と水はけの良い場所を好みます。西側に少し草丈の高くなるものを植えると西日を避けることができます。植える場所にほんのわずかな気づかいをすれば、寿命の長い宿根草です。組み合わせは、抹茶色の花茎と葉、紅色の花が美しいので一株の姿を浮かび上がらせてくれる植物を選ぶと良いでしょう（写真2）。たとえば、黄緑色の葉を持つシモツケの品種や銅葉のブロンズフェネルなどを植えると、ベニカノコソウの花を引き立ててくれます。



写真1 咲き始めのベニカノコソウの小花。
咲き進みながら、次のつぼみが膨らむ。



写真2 植栽して6年目のベニカノコソウの株。
後ろは、シモツケの品種ライムマウンド。